

親も初めての体験

子どもは、生まれて初めて子どもの役割をしています。親も同様に、初めて親の役割をしています。初めて同士、ぶつかり合ったり、失敗することは当たり前のことです。

人は成長しようとする時、前にいる人とぶつかります。壁にぶつかるようなものです。子どもがぶつかって来たときに、親は逃げてはいけません。親が逃げてしまうと子どもは何も学べなくなります。ぶつかるためにはエネルギーを使うし、イヤで怖い



いことかも知れません。親として間違ったことを教えて、失敗したくないという理由で、つい逃げてしまいたいということがあっても知れません。しかし教育は間違ふことから始まるのです。試行錯誤の連続です。

子どもが成長しようとしてぶつかってきたのなら、それをきっかけに親として成長するために、素直に、失敗を恐れず子どもにぶつかっていけばいいのです。ぶつかることで、子どもは親の本気を学び、親は子どもの本気を学ぶのです。

教育はぶつかり合いです。いい話をして説得し、きれいごとを並べるだけでは人間を教育していく事はできません。子どもはぶつかり合いを求めています。精神的な成長を経て大人になろうとしているのです。